

■部会名：安全・安心部会

■部会長（有識者委員）：佐々木 貴子 委員

■市民委員：石栗 和典 委員、梶井 正夫 委員、中村 紘子 委員、山崎 悟 委員

■概要

1 マトリックス集計結果

佐々木部会長：除排雪関係が一番で、高砂町地下歩道の関係や備蓄・避難所のことなども上位になっている。これから提言にまとめていくために、みなさんから出された意見をもとにもう一度マトリックスを整理していく。

全部会に共通の意見として、効果的な情報発信のあり方を検討していくことと、市民自治の視点でのまちづくりに関する戦略テーマを検討していくということが出ているので、当部会としてもその方向を意識してまとめる必要がある。

- マトリックスの集計結果に沿って、それを優先順位として整理しなければならないのか。例えば、除排雪関係については当部会ではあまり重要視して議論してきていないが重点項目としなければならないのか。全委員の意見を集計した意図がわからない。
⇒（事務局）集計結果も参考とした上で、部会での議論を尊重していただきたい。
- 除排雪については、市できちんとした計画があるため抽象的な話をしても仕方がない。より具体的に話し合える項目について重点的に議論すべき。

2 戦略テーマの整理

佐々木部会長：これまで出されている意見を全部取り上げてはきりが無いので、重点化すべき項目としては、防災・防犯・交通安全の3つとして整理する。また細かい意見が多いので、ある程度まとめるなどして整理していきたい。

[戦略テーマ：防災]

- 「浸水の可能性が高い地域の避難体制と避難基準の明確化」はできているか？
⇒（危機対策・防災担当）防災あんしんマップに記載している。豊幌地区など危険な地域は個別に自治会と協議して連絡体制等を構築している。
- 「地区の人口にあわせた避難所の設定」はできているか？
⇒（危機対策・防災担当）できている。また現在、人口約12万人に対して約5万人の定員で、充足率は約4割となっており他市に比べても高い数値となっている。
- 「避難所の早急な耐震化と現在の安全性の公表」はできているか？
⇒（危機対策・防災担当）耐震化は避難所でもある小学校を中心に順次進めている。安全性の公表については施設管理者等と調整しなければならない部分がある。
- 「AEDの設置」はだいぶ進んでおり、あとは活用の問題である。

- 「災害時に自治会等の団体へ指示する組織を市役所内に設置」という意見のように、人員削減といっても必要などころには配置すべきで、防災担当の組織の充実が必要である。
- 情報を全市民が共有できるようにするための情報発信というのは、テーマとしては大きすぎて提言に盛り込むのは難しい。
- 札幌市のまちづくりセンターのように、地域住民をある意味教育できるような部署が必要である。防災対策担当の中にもハード面の整備の担当だけでなく、ソフト面の担当、つまり地域住民とのやり取りの担当が必要で、そのために組織の強化・人員の充実が必要である。
- 「IDカードによるお薬手帳や毎年の健康データの管理」は住基カードの活用等が考えられるが、現在はまだ住基カードが普及していないのと、実施した場合の情報管理の方法やセキュリティの問題があり、実現は難しい。
- 自治会との連携や支援の関係と、市の組織に関する意見は「市民支援課の設置」としてまとめる。これは学校教育とも連携し、これからの子どもたちの市民教育にもつなげてほしい。
- 教育委員会は、文科省の机上の空論で動くのではなく、現場が何をしたいか、何をしなければならぬかを把握し、それに沿ってやるべきことを判断すべき。
- どこが避難所かはわかるが、それがどこにあるかわからない場合があるので、市内全域というのは無理な話だが、幹線道路付近には標識を充実させた方がよい。

[戦略テーマ：交通安全]

- エコの観点で車から自転車へと変わってきていることもあり、自転車に特化した取り組みをしていかなければならない時期だと思う。ハード面としては、分離歩道を整備するのか、あるいは車道に自転車道を整備するのかの整理が一つのテーマである。それに伴って、わかりやすい看板の設置と、出来上がった道路をどう活用するかを実際に使う市民へ教育していくことが必要。
- 冬に自転車に乗っている高齢者がいたりして危険なので、これを機会に乗り方のマナー啓発やそのための条例の制定等も検討する時期ではないか。
- 江別は道路が広いので分離歩道や自転車道の整備に取り組める地域だと思う。まずはハード面の整備が必要で、次の段階としてソフト面の自転車のマナー啓発等の教育が重要になってくる。
- 大麻0番通に歩行者と自転車を色分けして分離した道路が整備された。それを一つのモデルとするならば、江別全市的にその整備の仕方で統一して欲しい。
- これからのエコ社会に向けたエコタウンの一つのモデルとして江別がこのような事業に取り組んではどうかという一つの提言としたい。
- 短期では難しいので、中・長期的に取り組んでもらいたい。
- 自転車道などのハード整備は難しい面もあるが、ラインを引くだけでも効果はあるし、

余裕があれば色分けするなどして、その使い方を教育していけばよい。

[戦略テーマ：防犯]

- アンダーパスの関係の議論で我々が一番言いたかったことは、行政が勝手に事業を進めず、市民に情報をオープンにしてほしいということである。道がやる事業だから道にお任せではなく、道と密接に連携し、かつ市民に向けて情報発信しながら、本当に必要かどうか市民と一緒に判断してから事業を実施すべき、というのが一つの提言である。
- 市民の防犯に対する意識を高めていかなければならない。
- 市や道は事業を行う際に情報提供や意見交換を密に行わないと無駄な事業になってしまう恐れがある。
- まちづくりに市民が関心を持って参加する協働参画社会にしていくことが重要で、その実際の取り組みの一つのモデルとして、江別高校生と協働で高砂地下歩道の管理や防犯対策に取り組むなど、公共施設を市民と行政が協働で管理運営するしくみづくりが必要である。

[除排雪について]

- 除排雪については当然市が取り組まなければならない問題であるが、言い出したら切りがなく、雪国では我慢するしかないところもある問題であり、江別市が他市に比べて特別劣っているわけでもないことから、戦略テーマとして重点化はしないこととする。
- 雪を冷熱エネルギーなどで有効活用するというような方向で考えるべきで、環境・文化部会で検討してもらいたい。

[その他]

- これは提言であって、最終的に全部実現してもらえとは我々も思っていないが、これからの政策の中に少しでも意識してもらえれば、良いことがたくさんあるのではないかと思う。このような市民会議は、継続的に続けることで市がちゃんとやっているかどうか監視するという意味合いも含めた組織になると思う。市にとっては耳の痛い組織かもしれないが、大事な組織ではないか。